

**ブラジル連邦共和国上院の招待による同国公式訪問及び
各国の政治経済事情等視察参議院議長一行報告書**

	団	長	参議院議長	山東	昭子
			参議院議員	世耕	弘成
			同	長浜	博行
			同	西田	実仁
			同	石井	苗子
			同	大門	実紀史
	同	行	警務部長	大蔵	誠
			秘書課長	黒川	和良
			議長秘書	篠窪	有恒
			参事	大野	真由
			警護官	畑中	淳
			同	高木	祐介

一、始めに

山東参議院議長一行は、二〇二〇年一月七日から十六日まで、ブラジル連邦共和国上院の招待により同国を公式訪問するとともに、同国及びアラブ首長国連邦の政治経済事情等の視察を行った。参議院議長によるブラジル公式訪問は初めてであり、上院議員団と活発な意見交換を行うとともに、各訪問地で多くの日系人の方々からの歓迎を受けた。また、それに先立ち訪問したアラブ首長国連邦では日本担当特使でもある国務大臣と会談する機会を得た。

二、日程

一月七日（火）東京発

一月八日（水）ドバイ着、アブダビへ

グラド・モスク視察、ジャーベル・アラブ首長国連邦国務大臣との会談

アブダビ発、ドバイへ

ドバイ市内視察

一月九日（木）ドバイ発、サンパウロ経由、ブラジリア着

一月十日（金）ブランデーリ・ブラジル外務大臣代行との会談、三権広場等視察、

上院議員団との会談、上院視察、上院ラジオインタビュー、ニシモリ下院議員及び日系人との懇談

一月十一日（土）ドン・ボスコ聖堂等視察

ブラジリア発、イグアス着

一月十二日（日）イグアス国立公園視察

イグアス発、リオデジャネイロ着

一月十三日（月） コルコバード視察、ブルーノ・オオツカ・リオ州インフラ公共事業局長官との会談、リオデジャネイロ五輪関連施設視察、日系団体関係者との懇談

一月十四日（火） リオデジャネイロ発、サンパウロ着

日系団体代表との懇談、慰霊碑参拝・献花、ブラジル日本移民史料館等視察

一月十五日（水） サンパウロ発、ドバイ着

一月十六日（木） ドバイ発、東京着

三、ブラジル連邦共和国

（一）ブラジルの政治経済事情等

ブラジルは、南米一の大国であり、人口は約二億九百七十九万人、面積は世界第五位で日本の二十二・五倍である。二〇一九年一月に発足したボルソナーロ政権は、既存政治を打破するとして選挙公約の実現のため、まず財政赤字解消のための年金制度改革に踏み出した。一九〇八年から日本人の移住が開始され、現在日系人は約二百万人、日本に在留するブラジル人も約二十万人を数える。近年は幅広い分野で二国間の協力関係が進展しており、首脳会談も数多く行われている。

（二）上院議員団との会談等

ブラジル議会は、上院（州単位での大選挙区多数代表制、四年ごと改選、任期八年、八十一議席）と下院（州単位での非拘束名簿式比例代表制、任期四年、五百十三議席）で構成される。ブラジル議会が閉会中ということで、招待者であるアルコロンブレ上院議長により任命された超党派の三名の上院議員（バーホス議員、グルカクス議員及びロシャ議員）と会談を行った。

山東議長は、今回の公式訪問が実現したことについて感謝の意を表するとともに、二〇一九年七月、バーホス上院議員の主導で「日本人ブラジル移住一一一周年の特別公聴会」が開催されたことに対し御礼を述べた。また、世界情勢が複雑化するこの時代、政府間のみならず、国民を代表する議会人同士の交流が両国をつなぐ懸け橋となる旨、本年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されることから、リオからしっかりバトンを引き継ぎ、安全・安心な環境の下、すばらしい大会にしていきたいと、皆様を始め多くの方に訪日いただきたい旨述べた。

これに対し、一九九〇年代にブラジル女子バレーボールの黄金期を支えた中心人物であり、訪日経験も豊富なバーホス上院議員から議員団を代表して歓迎の挨拶があり、今回の会談には、十二名の女性の上院議員の代表としても臨んでいる旨、今年は両国関係にとって特別な年であり、是非訪日したい旨、両国はスポーツに限らず科学技術等幅広い分野で関係強化できる旨述べた。

ロシャ上院議員は、トメアスへの日本人の入植を例に挙げ、自身出身のアマゾン地域パラ州での農業開発において日系人が重要な役割を果たした旨述べた。

グルカクス上院議員は、アマゾン地域を環境破壊から守る努力を続けているが、

荒廃地の回復のためには、環境への先進的な取組を行っている日本の技術が必要である旨述べた。

一方、日本の議員団からは、両国は協力して自由貿易を推進し、電子商取引の分野でも世界共通ルールの作成に対しリーダーシップを取るべきである旨、環境問題に関しては持続可能な開発目標に基づいたグローバルな対応が必要である旨、一九七〇年代には経済発展と環境は両立するテーマでないと考えられていたが、最近では、有権者は投票基準として環境問題への取組に重きを置くようになってきている旨、参議院では近年、行政監視機能の強化に力を注いでいる旨発言があった。また、日本側から、ブラジルにおける女性の政治参加の状況、ボルソナロ政権の経済改革に対する評価について質問を行ったところ、ブラジル側から、地方選挙において女性の進出を後押しする動きがあり、三〇%の女性候補者枠を設けている現制度を廃止しようとする法律案の審議は止まっている旨、現政権の経済改革を通じ効率性が高まったとの評価がある一方、格差が拡大した面もあり、議会において修正が行われるなど、議会の役割は重要である旨発言があった。さらに、両国とも、二院制における上院での審議時間の確保について悩みを抱えていること、年金制度改革について与野党の意見の違いがあり議論百出であることなど、議会制民主主義国としての類似性に共感しながら活発な意見交換が行われた。

その後、一行は上院議場の視察を行い、引き続き山東議長は上院ラジオ局によるインタビューを受け、日本の民主制における参議院の役割、今回のブラジル上院訪問の意義等について答えるとともに、ブラジル社会に貢献している日系人に向けたメッセージを述べた。

(三) ブランデーリ外務大臣代行との会談

冒頭、ブランデーリ外務大臣代行より、歓迎の挨拶とともに、大統領及び外務大臣が不在で一行をお迎えできず残念とおわびの発言があった。その上で、二〇一九年は二度の大統領の訪日があり、両国の友好関係の発展は新たなステップを迎えている旨、ブラジルは豊かな資源を有する若い国であるが、資金面や技術面で弱さがあるのに対し、日本は天然資源が豊富とは言えないが、資金力や技術力を持つ伝統のある国であり、両国は補完関係にあると考えられ、将来的にも高い潜在力を有している旨、今後様々な分野で両国関係を更に発展させていきたい旨述べた。

山東議長は、両国の首脳会談が一年で三回行われるなど強固な信頼関係の構築がうかがえる旨、ブラジルにおける二百万人の日系社会は両国の重要な懸け橋であり、人的きずなを一層深めるためにも大切な存在である旨、本年開催される東京オリンピック・パラリンピックについて、リオからしっかりバトンを引き継ぎ成功させたく、多くのブラジルの方々に訪日いただきたい旨述べた。これに対し、ブランデーリ外務大臣代行は、日系社会はブラジルに対し大きな貢献をしており、我々にとって手本となるような存在である旨、オリンピックへの招待に感謝して

おり、大統領訪日についても検討中である旨、安倍総理にも是非訪伯願いたい旨述べた。

その他、日・メルコスールEPAの在り方、アマゾン地域の森林火災問題から見えた持続可能な開発への対応、ブラジルの経済・税制・年金改革の状況、ブラジル経済に対する日本の貢献等について議論が行われた。

（四）ブルーノ・オオツカ・リオ州インフラ公共事業局長官との会談

リオデジャネイロにおいて、日系四世でありリオ政界で唯一の日系若手政治家であるブルーノ・オオツカ・リオ州インフラ公共事業局長官と会談を行った。

冒頭、山東議長は、同州内において発生した洪水被害に対しお見舞いを述べるとともに、日系人としてリオ州の要職に就任された長官に対し、両国の懸け橋となって活躍されることを期待する旨述べた。これに対し、長官は、お見舞いの言葉への謝意を表明し、誠実、規律、勤勉、知性といった特性を持つ日本人をルーツとしていることを誇りとし、その良さをいかしながら日系社会や総領事館との関係を構築している旨述べた。

その他、リオ五輪施設の大会後の利活用・維持管理の状況、公共事業における持続可能性の観点からの取組、ファベラと呼ばれる低所得者層の集団密集地の再開発問題等について議論が行われた。

（五）日系人との懇談

ブラジルでは、大使公邸において、日系議員の重鎮であり伯日友好議員連盟会長を務めるニシモリ下院議員、現職の法務省連邦警察庁職員であるウメダ・ブラジル連邦区日伯文化体育娯楽協会会長、日本国籍を有し、現在も家族でグアバやアボカドの生産農家を営む山縣ブラジル中西部日伯協会連合会元会長、東京外国語大学への留学経験のある二十五歳のヤマニシ・ブラジル国費留学生同窓会会長と夕食を共にしながら懇談が行われた。冒頭、山東議長は、日系人の方々がブラジル社会への貢献に尽力されていることに対し感謝の意を表するとともに、両国関係の一層の発展を期待する旨挨拶した。その後、日本の外国人技能実習制度の現状と課題、ブラジルにおける日系人の農業の実情等について意見交換が行われた。

リオデジャネイロでは、総領事公邸において、ミノル・マツウラ・リオ州日伯文化体育連盟理事長兼リオ日系協会会長、ソウハク・バストス・リオ日伯文化協会会長を始め日系団体関係者十九名と夕食を共にしながら懇談が行われた。冒頭、山東議長は、二〇一九年十月の即位の礼及び海外日系人大会に際し、訪日された方々とお会いしたが、この度長年希望していた訪伯が実現しうれしく思う旨、日系人の皆様が厳しい状況を乗り越え、ブラジル社会の中できずなと信頼を築き上げてきたことに感謝する旨挨拶した。これに対し、マツウラ氏より歓迎の挨拶があり、リオ州には日系一世とその子孫が約一万五千人いる旨、日系協会は様々な

イベントを開催しており、その参加者の多くは非日系である旨発言があった。その後、ブラジルの現状、日系社会の成り立ち、ブラジルの貧困問題（特にファベラの状況）等について活発な意見交換が行われた。

サンパウロでは、総領事公邸において、石川レナト・ブラジル日本文化福祉協会会長、山田康夫ブラジル日本都道府県人会連合会会長、村田俊典ブラジル日本商工会議所会頭を始め日系団体代表等十一名と昼食を共にしながら懇談が行われた。冒頭、山東議長は、今回長年来の希望であったブラジル訪問が実現し感無量である旨、日系人の皆様が大変な苦勞をして今の生活や地位を築き上げ、ブラジル社会の信頼を勝ち得て様々な分野で活躍されていることに敬意を表するとともに、移住一〇年を超え日本とブラジル日系社会がますます緊密化することを期待している旨挨拶した。その後、ブラジル日系社会の現状、日本への日系人の受け入れ拡充の必要性、日本と日系社会との連携の在り方等について意見交換が行われた。

（六）その他

ブラジリアでは、テレビ塔の展望台から三権広場と呼ばれる議会等がある街全体を見渡すとともに、オスカー・ニーマイヤー設計のカテドラル（大聖堂）、ステンドグラスが美しいドン・ボスコ聖堂を視察した。

イグアスでは、シヴェッリ国立公園長代行から同公園設立の歴史、環境保護の取組等について説明を受けながら、世界三大瀑布の一つとされるイグアスの滝を視察した。

リオデジャネイロでは、キリスト像で有名なコルコバードの丘を訪れ、街全体を展望し、観光都市としての美しい景観と貧民街が隣接する姿を視察した。また、リオ五輪の開閉会式が行われ、普段はサッカー場として使用されているマラカナン・スタジアムを訪れ、当時演出にも携わられたキタハラ高野聡美リオデジャネイロ州立大学教授から詳細な説明を受けた。

サンパウロでは、山田康夫ブラジル日本都道府県人会連合会会長ほか、県連幹部の案内により、開拓先没者慰霊碑への参拝・献花を行った後、ブラジル日本文化福祉協会幹部等の案内により、一九五四年にサンパウロ市制四百年を記念し、全ての資材を日本から調達して建設された純和風の日本館を視察した。また、日本文化の紹介等を行うため、建築家の隈研吾氏がデザイン監修を行い、二〇一七年に開館したジャパン・ハウス・サンパウロ（JHSP）を訪問し、多くの見学者でにぎわう中、アラウージョ館長の案内により視察した。さらに、ブラジル日本移民史料館を訪問し、同館運営委員会幹部から時代ごとに展示されている日本人移住者の生活の様子等について詳細な説明を受けた。

四、アラブ首長国連邦（UAE）

（一）UAEの政治経済事情等

UAEは、アラビア半島のペルシャ湾沿いに位置する七つの首長国から成り、人口は約九百六十三万人、面積は北海道とほぼ同じである。同国にとって日本は原油輸出先第一位であり、日本としては原油輸入の約二五%、第二位の輸入元である。日系企業の進出も多く、在留邦人数は中東・北アフリカの中で最大である。近年は石油に依存しない国造りを目指し、将来を見据え観光促進の大型プロジェクトや再生可能エネルギーに係る先進的な取組も進めている。日本との首脳間の交流も活発であり、教育・文化などエネルギーにとどまらない幅広い分野での協力が進展している。

(二) ジャーベル国務大臣との会談

一行は、ジャーベル国務大臣がCEOを務めるアブダビ国営石油会社（ADNOC）に赴き会談を行った。

会談冒頭、ジャーベル国務大臣からは、一行が面談を希望していたハッザーア殿下が不在のため一行を迎えられなかったことについてお詫びがあり、その上で、本日一行をお招きできたことを光栄に思う旨、良好な両国関係が維持されることを希望しており、今後とも石油・ガス等日本へのエネルギー安定供給を最優先に取り組み、最大の供給国になりたい旨、日本担当特使としてAIを始めとした両国間の包括的戦略的パートナーシップの強化に努めていきたい旨発言があった。

山東議長は、即位の礼における総理主催晩餐会にて歓談し時を置かずお会いできたことについて謝意を表明した上で、本年は、UAEではドバイ万博が、日本では東京オリンピック・パラリンピックが開催される記憶に残る重要な年であり、両国の人的交流が一層盛んになることを期待するとともに、更なる訪日を要請したい旨述べた。さらに、UAEが先端科学技術の振興に力を入れていることを踏まえ、青少年の科学技術交流として、学生、研究者、行政官を二十名程度日本へ招へいすることを提案した。

これに対し、ジャーベル大臣より、交流の提案はすばらしく、同意したい旨、訪日した際には是非お目にかかりたい旨発言があった。

なお、会談終了後、ジャーベル大臣の提案により、UAEにおけるAI活用の取組状況を理解する観点から、ADNOCグループの組織構成や時々刻々変化する原油等の生産状況を一覧できるシステムを視察した。

(三) その他

アブダビでは、UAE建国の父、初代ザイド大統領が計画し建築され四万人が入場可能というUAE最大のグランド・モスクを視察するとともに、ドバイでは、現在世界で最も高い百六十階建ての高層ビルを訪問し、展望台から市内を視察した。

五、終わりに

今回の参議院議長一行の公式派遣では、ブラジル、U A E 両国から時宜を得た訪問であると大きな歓迎を受けた。特にブラジル公式訪問では、議員間の忌憚のない率直な議論が行われ、議会間交流という重要な目的を果たすことができた。加えて、各訪問地での日系人の方々との懇談は、短い時間であったが和やかな雰囲気の中で一人一人と間近に交流することができる非常に有意義な機会となった。今回得られた知見は、本院の議会間交流の発展や、日本と訪問した両国との友好親善関係の一層の深化のためにいかしていく必要がある。

また、両国訪問に当たっては、ブラジル上院及び外務省関係者、U A E 政府関係者並びに山田彰ブラジル連邦共和国駐箚特命全権大使、中島明彦アラブ首長国連邦駐箚特命全権大使、野口泰在サンパウロ日本国総領事、大鶴哲也在リオデジャネイロ日本国総領事、梅澤彰馬在ドバイ日本国総領事、若枝一憲在クリチバ日本国総領事代理を始め、在外公館員等多くの方々から多大なる御支援・御協力を得た。お世話になった皆様に対し、心より厚く御礼申し上げる。